

再評価結果（平成20年度事業継続箇所）

担当課：都市・地域整備局 街路課
担当課長名：松谷 春敏

事業名	都市計画道路 <small>せとがわぶるむなこどせん</small> 瀬戸川プロムナード線	事業区分	街路	事業主体	愛知県	
起終点	自： <small>あいちけんせとしまわきちよう</small> 愛知県瀬戸市山脇町 至： <small>あいちけんせとしきかえちよう</small> 愛知県瀬戸市栄町			延長	0.54km	
事業概要						
<p>本路線は、瀬戸市の中心市街地、一級河川瀬戸川沿いに位置し、国道155号、国道248号、国道363号と接続する幹線道路である。当該地区には名鉄瀬戸駅があり、河川事業（県）、街路事業（県）、駅前再開発事業（市）が一体となって、観光施設としての機能を併せもつよう整備を行っている。</p> <p>整備前の本路線は交差点形状が悪く渋滞が多発していた。また、歩道が狭く電柱が乱雑に設置された状況であった。そこで本事業では現道拡幅による交通容量の拡大および電線地中化により快適な歩行者空間を目的として整備している。</p>						
H10年度事業化		S41年度都市計画決定		H11年度用地着手		
H12年度工事着手						
全体事業費	29億円		事業進捗率	85%	供用済延長	0.35km
計画交通量	9600台/日					
費用対効果分析結果	B/C	総費用		総便益	基準年	
	(事業全体) 1.3 (残事業) 20.7	(残事業)/(事業全体) 2/33 億円 事業費：1.7/33億円 維持管理費：0.26/0.26億円		(残事業)/(事業全体) 41/41億円 走行時間短縮便益：37/37億円 走行経費減少便益：1.1/1.1億円 交通事故減少便益：2.9/2.9億円	平成19年	
事業の効果等						
<p>個性ある地域の形成（万博支援。特色あるまちづくりに資する事業である） 無電柱化による美しい町並みの形成（無電柱化推進計画に位置づけがあり、快適な歩行空間が創出される）</p> <p style="text-align: right;">外5項目に該当</p>						
関係する地方公共団体等の意見						
市街地のより一層の発展、交通安全の確保のためにも地元瀬戸市からも早期完成が望まれている。						
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等						
駅周辺の再開発事業が平成17年3月に完了している。また、平成17年の万博開催時には工区内の尾張瀬戸駅はシャトルバス発着所となることが計画されていたため、万博の開催に合わせて下流右岸側の車道及び歩道整備を先行的に行った。						
事業の進捗状況、残事業の内容等						
用地買収は約97%進捗している。残事業は、用地買収は3件、道路工事0.2km						
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等						
用地交渉や代替地の選定等に時間を要したことから、事業が長期化した。すでに一部工事着手している。用地買収を完了するために、引き続き用地交渉を進め、早期完了を目標としている。						
施設の構造や工法の変更等						
新工法による大規模なコスト縮減はないが、再生材の使用等によりコスト縮減を図るとともに、「あいくる材」の積極的な活用等により環境負荷の低減に努める。						
対応方針	事業継続					
対応方針決定の理由	以上の状況を勘案すれば、当初から事業の必要性、重要性は変わらないと考える。					
事業概要図						

総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。